

特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業
令和5年度 研究結果報告



鎌倉市教育委員会



1 研究概要



研究概要

- 児童生徒が自らの学びの特性を知るための**アセスメント**や、自分らしい学び方を試すことができる**探究プログラム(かまくらULTLAプログラム)**の実施を通じ、学校内外における個別最適な学びの在り方(特に、学習の個性化に関すること)について研究する。
- また、地域の方々や教職員等を対象とした、探究プログラムの理念やノウハウに関する**ワークショップ研修**を開発し、地域社会全体で児童生徒が特性を発揮しながら学べる場づくりを進める。

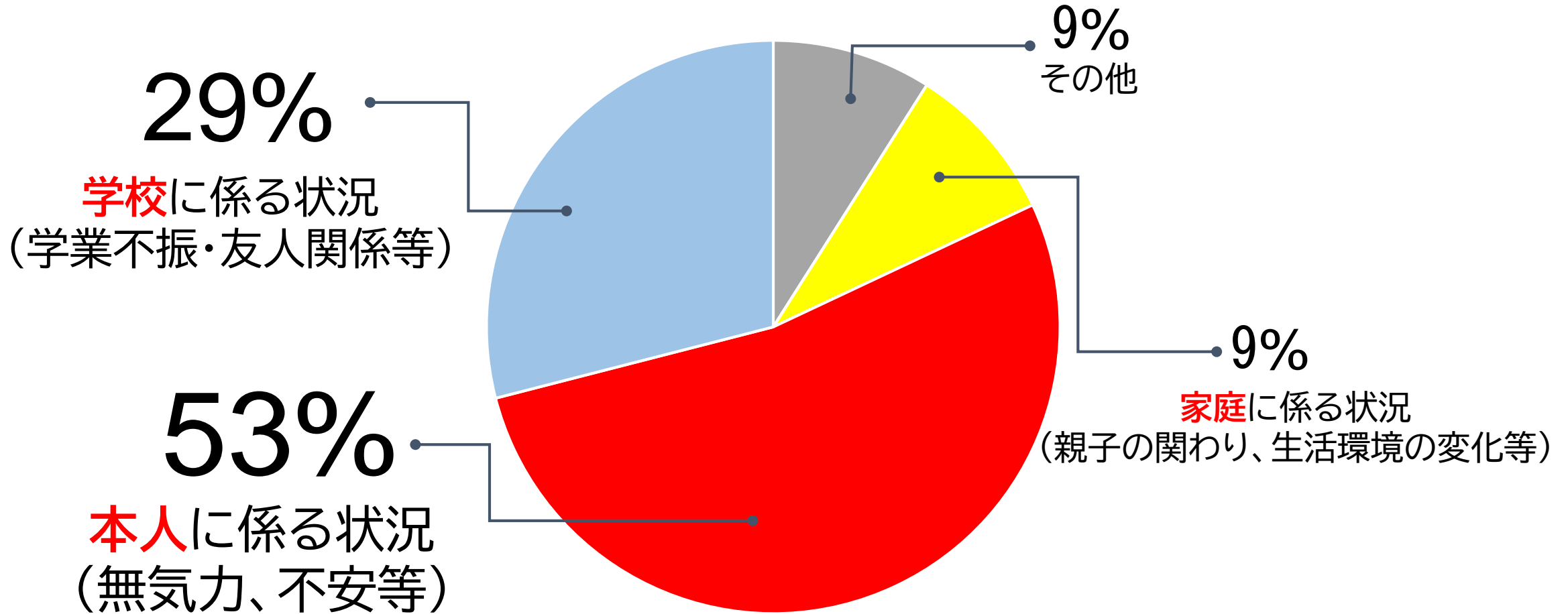
2 「かまくらULTLAプログラム」とは



かまくらULTLAプログラムとは

不登校児童生徒数は増加

学校に通うのがつらい児童生徒の本質的原因に迫れているか

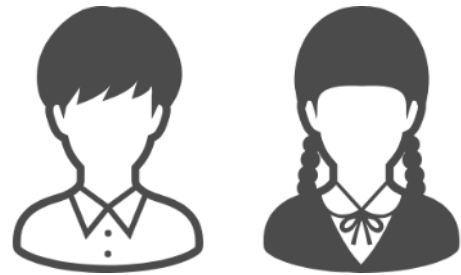


児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査(令和4年度)、鎌倉市

かまくらULTLAプログラムとは

ULTLAの課題意識

学習特性と学校特有の環境が合わないと、しんどい



一人一人ユニークな
個性・特性・学び方



学校特有の環境・
価値観・学び方
(一斉授業・集団との関わり等)



マッチ



ハッピーな
学校生活



ミスマッチ



登校渋り
不登校

- 関心領域: 言語、数、音楽、社会...
- 入力特性: 聴覚優位、視覚優位、触覚優位...
- 出力特性: 話す、書く、描く、身体表現...
- 学習特性: 一方通行、双方向、個人、集団...

学校になじめない児童生徒の個性や特性を科学的に把握して、自分にあった学び方でその個性・特性を最大限発揮することで、そうした児童生徒の真の自立につながるのではないか



すべての子どもたちがユニークな学びを 花開かせていく世界



- 森、お寺、海などの**鎌倉の地域特性**を生かしたプログラムの中で、参加者一人ひとりが個性や特性に応じて**自分らしく学んでいく方法**を見つけていくことを目的とした**探究プログラム**。
- 小学校4年生から中学校3年生で、学校における学習になじめず、不登校あるいは休みがちとなっているなど、**学校に通うのがつらいと感じている児童生徒**が参加対象。
- 毎年「**海のプログラム**」と「**森のプログラム**」を3日間ずつ実施。

3 令和5年度の取組



令和5年度は以下の3点を柱とした取組を行った

- ① アセスメント
- ② 探究プログラム
- ③ ワークショップ研修

① アセスメント

認知特性、関心領域、思考スタイル、好奇心スタイルの4分野における特性を把握するため、学術的な根拠に基づくアセスメントを実施



子どもが自分のユニークな学びの特性に気づくきっかけをつくる

① アセスメント



3 セクション中 1 個目のセクション

自分を知るための「spaceQ」



プログラムへの応募、ありがとうございます。私たちと一緒に、自分がイキイキと生きられる場所、人、ものごとが何かを見つけていきましょう。プログラムを通じて、自分の学び方のクセや自分らしさってどんなことなのか感じとってみてくださいね。

まずはあなた自身の「学びのクセ」について知るための質問に答えてください。プログラムを受ける前と後で比べてみて、自分の中での変化を見つめてみましょう。

こちらの質問は6つの大質問からなっています。
自分に当てはまっているかどうか想像しながら、答えてくださいね。
それでは、はじめましょう！

① アセスメント

spaceQ 学びのポートフォリオ の読み方

8つの力

関心を生み出したリ、疑問を解決するために使う力を示しています。自分の強みや得意な力が発揮できているのを知って自分の強みを生かしていきましょう。



spaceQのポートフォリオでは、自分の好きなものや得意なやり方の傾向を知ることができます。これを参考にすることで、自分らしい学び方を追究していきましょう。



Science

科学に関すること

Technology
技術に関すること

Engineering
物づくりに関すること

Arts
社会科学や芸術に関すること

Math
算数や数学に関すること

STEAM領域

STEAMの中でのどの分野に強みが向きやすいかを示しています。興味のある分野を物けてみましょう。



思考スタイル

物事を進めていく時の強みのある思考スタイルを示しています。自分の強みのクセを知って、特徴を生かしたやり方を工夫してみましょう。

形質

単独型
一度に一つのこと
に集中し、力を注ぐ

序列型
次第に複数のこと
を達成していく
方法を好む

並列型
同時に複数のこと
を並行して進
めようとする

任意型
順序が決まらず
にこなす

水準

同視型
物事を全体から
捉えようとする

微視型
物事の細かい
部分に注意が向く

態度

立案型
創造や発想などを
率先で提案する

遵守型
言われたことを
きちんとやり遂げ

評価型
人や物事を批判
したり、評価する

肯定型
人や物事を肯定
したり、評価する

共同型
一人で独立して
やる

共同型
誰かと一緒に
協力してやる

共同型

革新型
新しいやり方で
物事に挑戦する

保守型
すでに決まった
やり方を守る

認知特性の優位性

入力

視覚
イラストやアニメーション、
動画など

聴覚
ラジオなど言葉で聞く

体感覚
実際に活動など体を
動かして試してみる

情報

情報をチャットする3つのセンサーの
感覚の違いは人によりです。自分の
センサーの特徴を確認してみましょう。

出力

話す
プレゼンテーションや
会話などで伝える

書く
文章や絵などで伝える

描く
絵や図などで伝える

読む
読んだ本の言葉などを
引用して伝える

考えや思いを伝える4つの方法の使い
やすさは人によりです。自分の得意な
方法を試して、選んでいきましょう。

好奇心スタイル

心のエネルギー

高エネルギー～低エネルギー
心のエネルギーはやる気に影響します。
自分の状態を見て、意欲のエネルギーの
かき決めていきましょう。

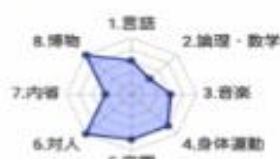
ときめきスタイル

収束～拡散
好奇心スタイルには特定の分野を深く
掘り下げるタイプと、様々な領域に広がる
タイプの2種類があります。

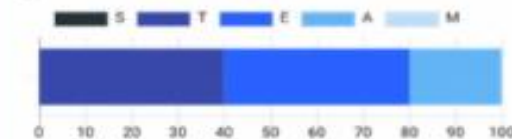
spaceQ

2021/10/19

8つの力



STEAM領域



思考スタイル

評価型
人や物事を批判し
たり、評価する

単独型
一度に一つのこと
に集中し、力を注ぐ

微視型
物事の細かい部分
に注意が向く

単独型
一人で独立してやる

革新型
新しいやり方で物事
に挑戦する

単独型

単独型

革新型

革新型

高エネルギー

低エネルギー

高エネルギー

低エネルギー

認知特性の優位性

入力

視覚

聴覚

体感覚

情報

情報

情報

情報

情報

情報

情報

情報

情報

情報

出力

話す

書く

描く

読む

読む

読む

読む

読む

読む

読む

読む

読む

読む

総評

8つの力のうち、自然の原理を考えたり、人と話しながらコミュニケーションを取るのが特に得意です。また体を動かしたり、空間や立体的な形を理解することも向いています。テクノロジーや、ものづくりや芸術にも興味があるので、パソコンの作業や創作活動を進めていけるとよさそうです。考え方のスタイルは、考え方のスタイルは何かを評価することが得意で、一つのこと集中して考えたと考えがまとまっていくでしょう。細かいことにも気が付きやすいので、そこも強みにしていけそうです。一人で作業をしていくことが得意なので、マイペースに進めていきましょう。体を動かしながら学んだり、情報を受け取ることが得意で、そこから得た情報をだれかに話すことで思いを伝えていくことができます。色々な興味があることに自分のペースで取り組んでいくといいでしょう。



② 探究プログラム

探究プログラムの開発・実践

- **自分らしい学び方**を様々な形で試せるような多様性のあるプログラムコンテンツ
- **鎌倉が持つ豊富な教育資源**(人材・自然・歴史)を活用

③ ワークショップ研修（リサーチラボ）

かまくらULTLAプログラムの要素「**児童生徒が自らの個性・特性を知るためのアセスメントの活用**」「**地域の教育資源を活かした探究プログラム**」の地域への普及



地域と学校との連携や地域社会の理解の醸成の在り方について検証する

③ ワークショップ研修 (リサーチラボ)

①リサーチセッション



かまくらULTLAプログラム
の理論を学ぶ

②ランチセッション



かまくらULTLAプログラム
を体験

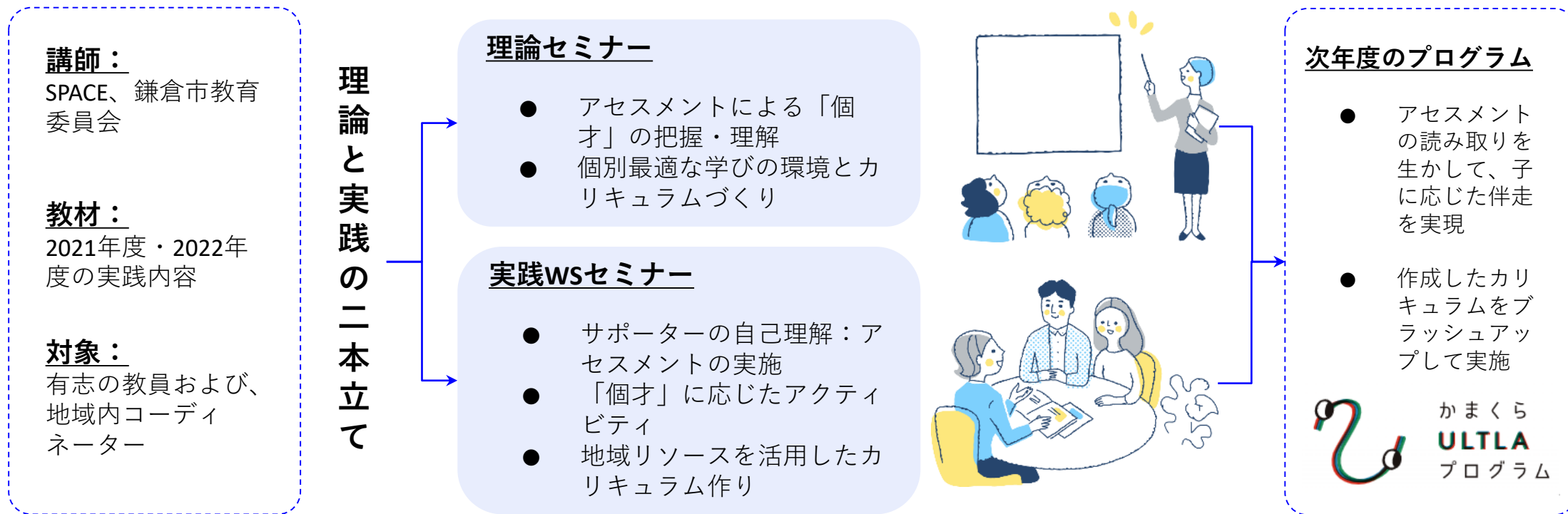
③ワークセッション



地域協働によるプロ
グラムづくり

③ ワークショップ研修（リサーチラボ）

地域がまるごと一つにつながり、学びを共有し、作り上げる仕組みづくり

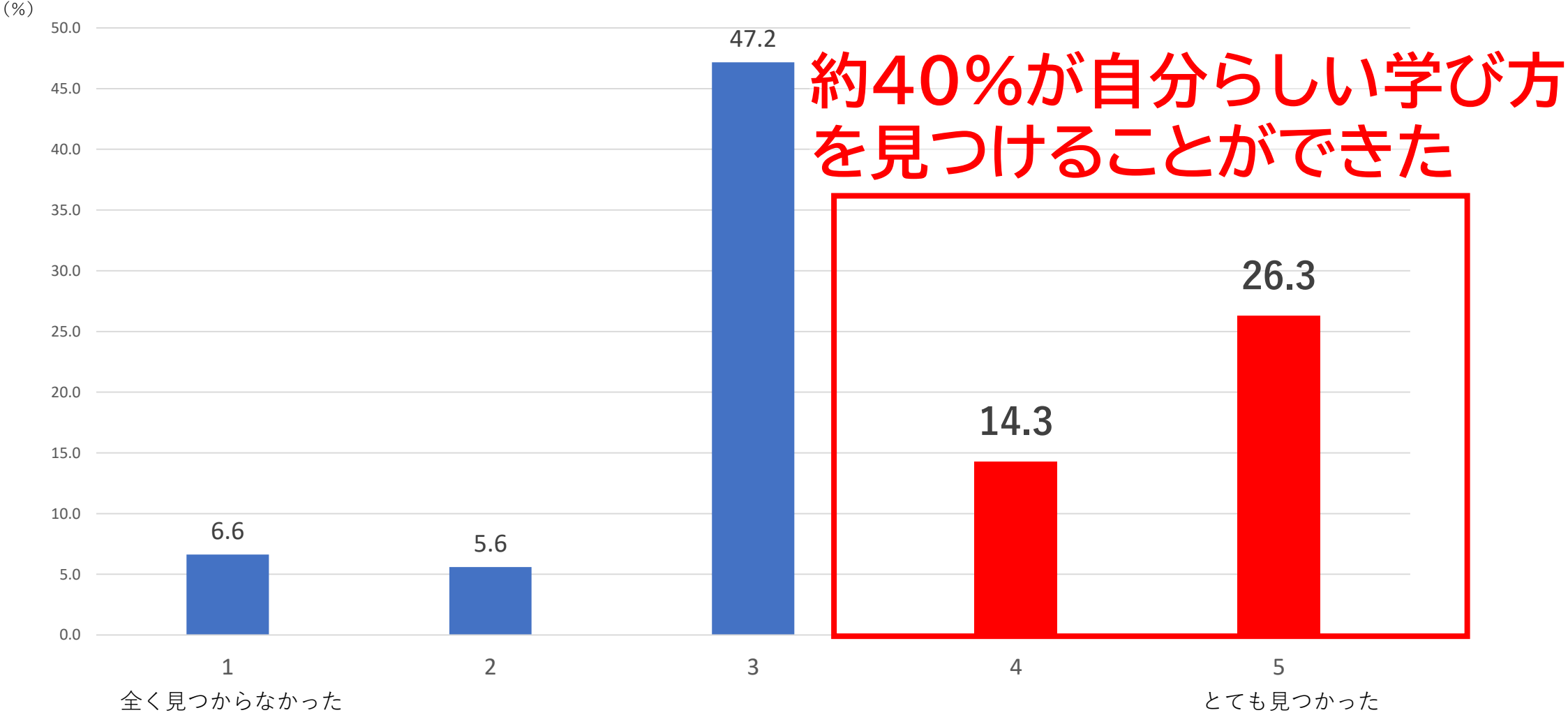


4 成果と課題

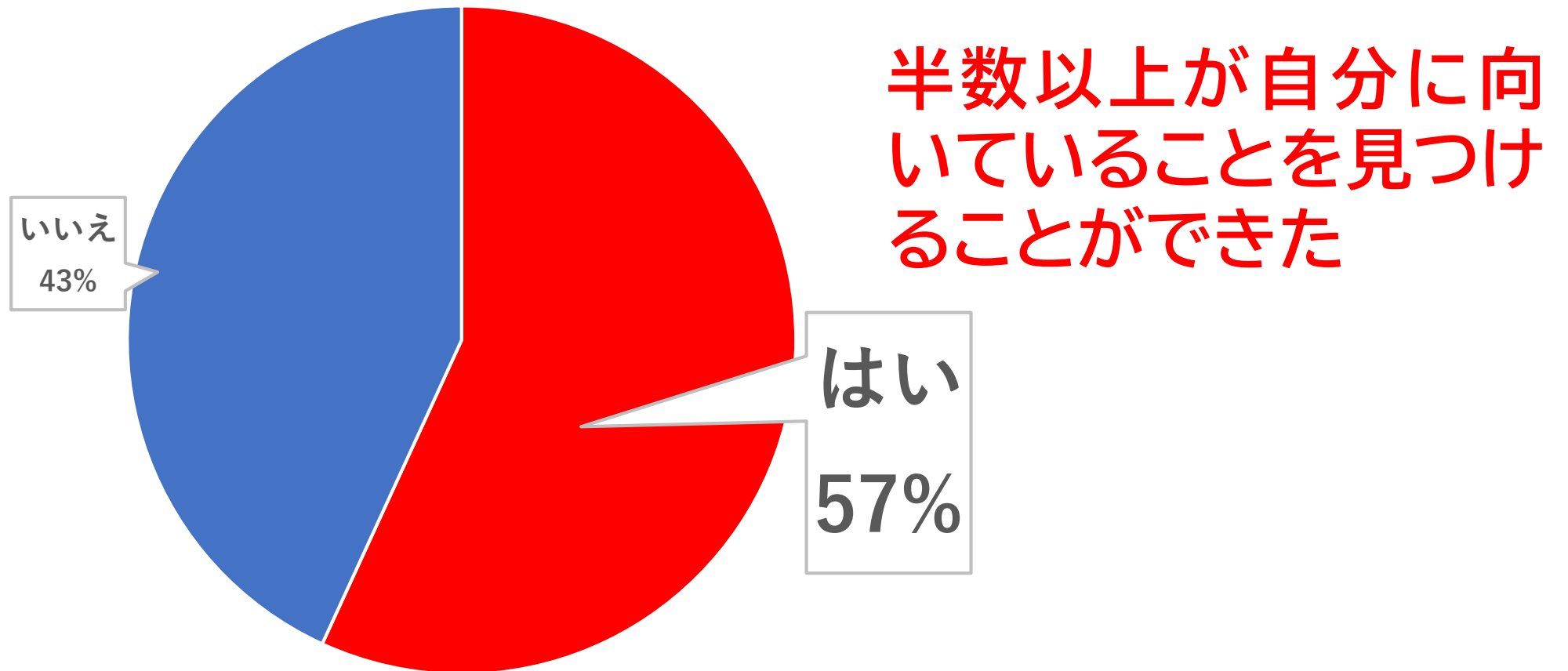


成果と課題（探究プログラム）

自分らしい学び方が見つかった割合



自分に向いていることが見つかった割合



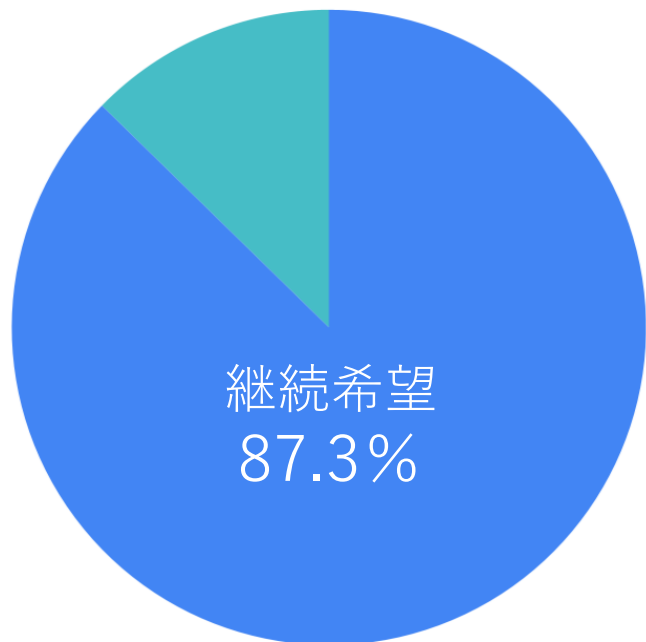
自分に合っていると感じた学び方

0.0 10.0 20.0 30.0 40.0 50.0 60.0 70.0 (%)

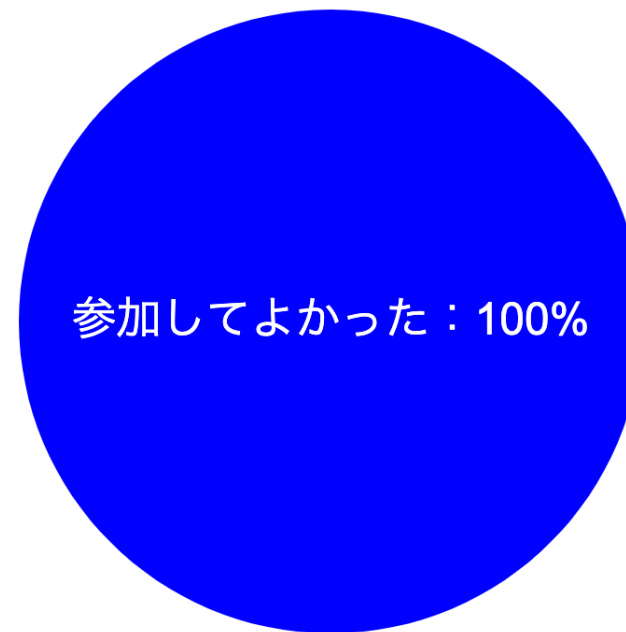


ULTLAで学び続けたいという声！

子どもたちのULTLAでの
学びを続けたいという声



保護者のULTLAに参加
してよかったという声



親子ともに **約9割**の方々が、かまくらULTLAでの学びを必要と感じているとの回答

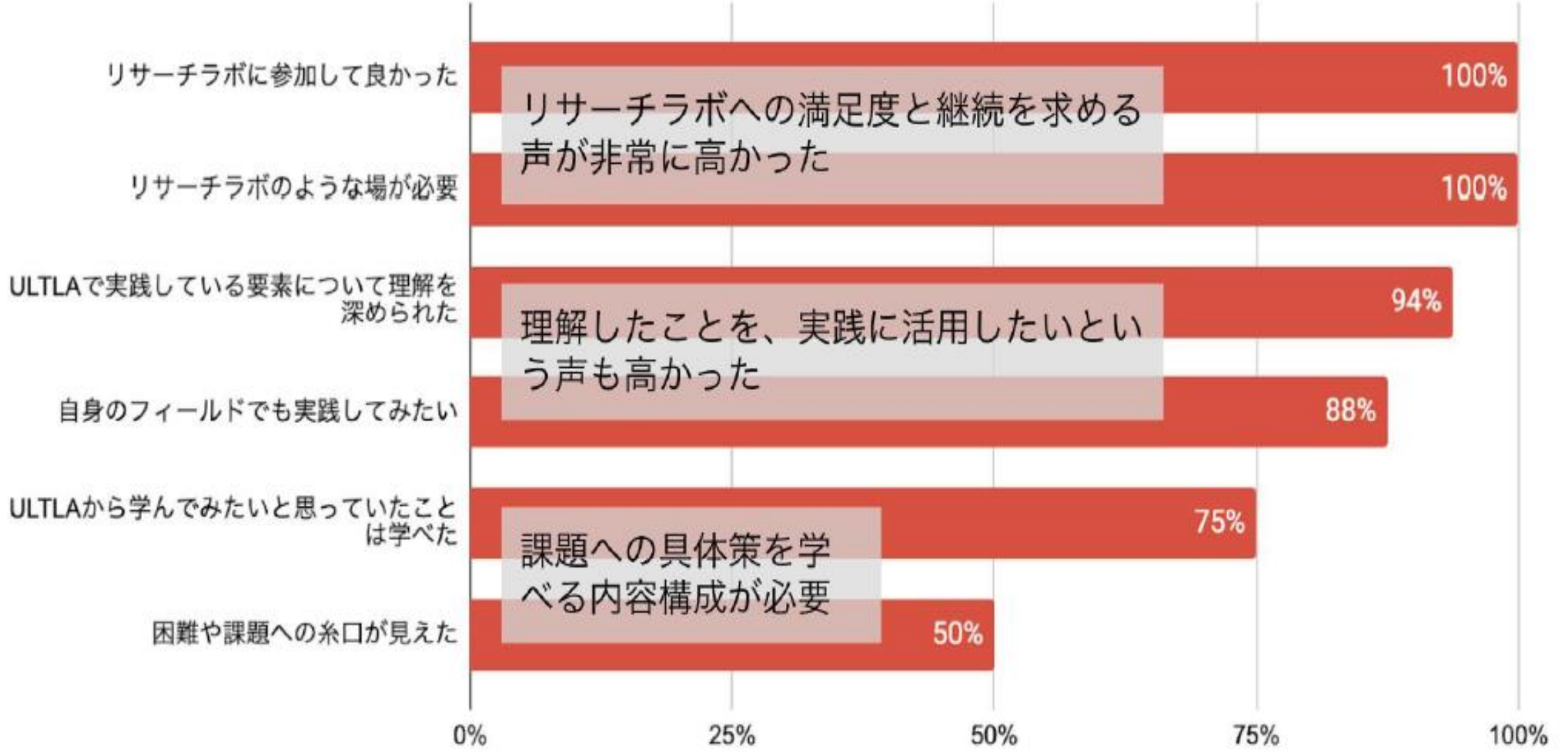
成果と課題(探究プログラム)

- プログラムの中で児童生徒が自由に**学習方法を選択**できること
- プログラムのコンテンツに多様性があり、**自分らしい学び方**を様々な形で試す機会があること
- 特性があることを踏まえながら寄り添うことで、児童生徒が**安心して自分らしく学びに取り組む**ことができたこと

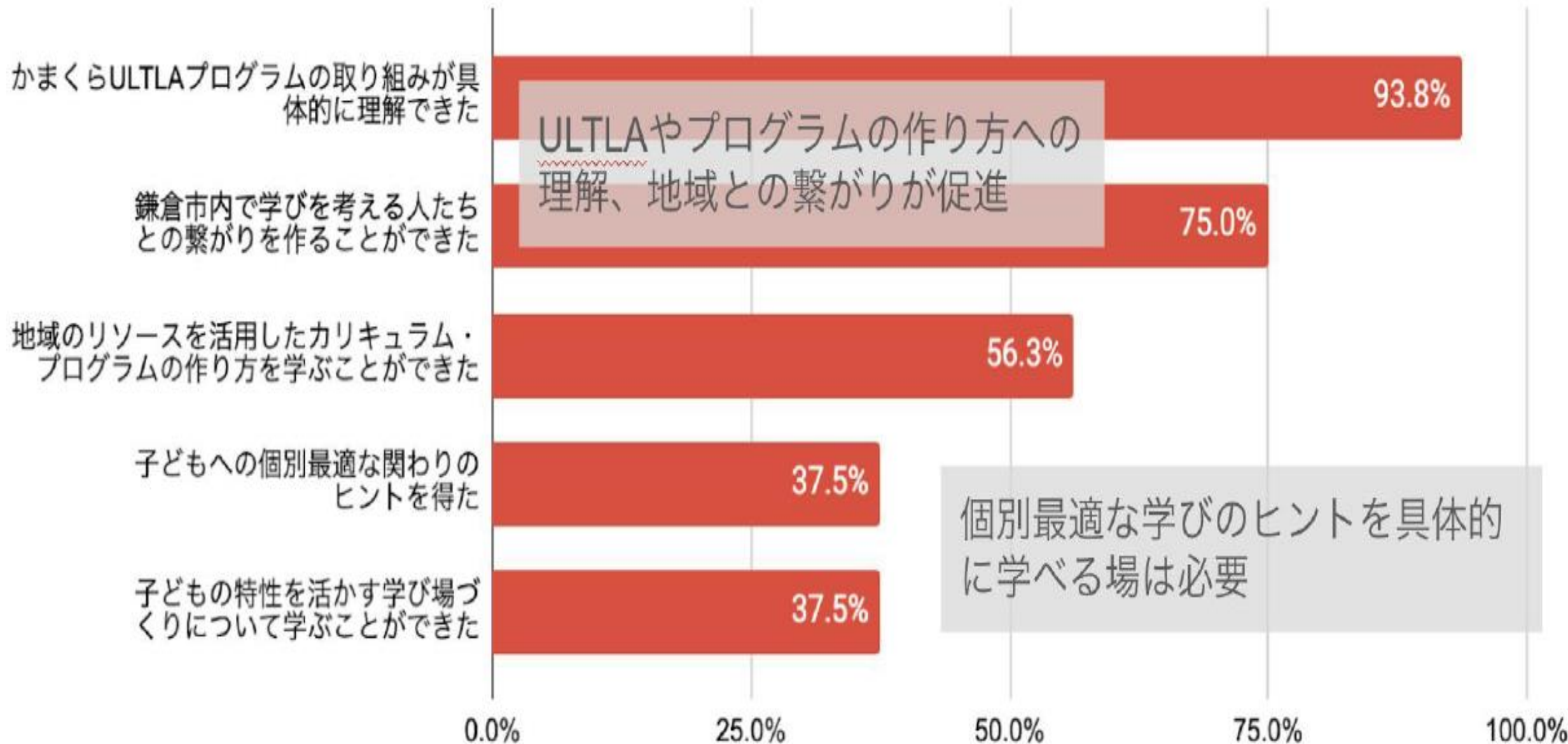


プログラムが**児童生徒自身の新たな側面に気づかせる機会**として一定の効果を発揮したと考えられる

成果と課題（ワークショップ研修）



成果と課題（ワークショップ研修）



成果と課題（ワークショップ研修）

- かまくらULTLAプログラムに関する基本的な理解が深まった
- 教職員と地域の教育関係者が繋がる契機となった
- ▲ 参加者がそれぞれのフィールドで活用していくためには**更に具体的なケースを想定した研修が必要**

- ▲ アセスメントがどれだけ探究プログラムや普段の学習・生活に取り組む姿勢に影響を及ぼしたかについての**データが不足**



児童生徒及び保護者にアンケートを通じた追跡調査を実施し、アセスメントの有効性や児童生徒の変容について更なる検証を実施